

祥しょう

雲うん

閣かく

たより Vol.41

祥雲閣 の由来

『祥雲閣』は荒雄地区の旧家、青沼家が明治時代に荒雄公園に建立した貴賓館の名称です。合併前の古川市に寄付され市の施設として利用されていましたが、老朽化と度重なる地震により昭和40年代に取り壊されました。その後、国の地域づくり推進事業の認定を受けて、公園周辺の整備とともに新しい伝統文化の普及・研修の施設が建設され、平成6年歴史ある名前を継承し開館しました。

テーブルと椅子を配置した立礼茶室ではお座敷とは違った雰囲気の中で、抹茶や煎茶と季節の和菓子を500円で提供をしております、気軽にお茶を楽しめます。



祥雲閣の庭園は、さわやかな秋空の中色彩あふれる紅葉の美しさに心が弾む季節を迎えます。

立冬が過ぎ、初霜の便りが届く頃になると冬紅葉が見られます。岩と石で水の流れを表現する枯山水に落ちる葉の色がより透き通るように見えて冬の訪れを急いで告げているように感じます。



大崎市祥雲閣

令和4年 11月 1日発行

〒989-6105

宮城県大崎市古川福沼一丁目2番2号

TEL・FAX 0229-24-3385

季節によって変わる

茶室のしつらえと茶道具

炉 開 き

11月に茶室では炉開きが行われます。

炉開きは炉を切る（開く）ことです。炉開きが行なわれる11月は茶の湯において特別なもので「茶人のお正月」とも言われます。



「炉」は畳の一部を切って、床下に備え付けた一尺四寸（約42cm）四方の囲炉裏で、釜を掛けてお茶を点てるためのお湯を沸かします。室町時代に千利休によって、位置や寸法が完成され、現在の形になったそうです。※諸説あります。

茶室の歴史



茶室は室町時代に座敷を屏風で囲い、茶を点てた事がはじまりと伝えられ、室町幕府 八代将軍足利義政が銀閣寺に「同仁斎」という最初の茶室を作りました。

その後武野紹鷗が四畳半に囲炉裏でお湯を沸かす炉を作り、武野紹鷗の弟子だった千利休が四畳半や二畳敷など、もてなす側と客がより親密になるよう狭い茶室を作りました。屋根はわらなどでふき黒や褐色の土壁が用いられました。入口はにじり口といい、低い位置に設けられ、頭を低くして入ります。

武士であっても商人であっても、同じように頭を下げなければ入る事ができず、そこに入れば皆が平等であるという思いを込めたそうです。

※諸説あります。

カレンダー

※月曜休館 ■は休館日（変更する場合があります）

11月							12月							2023年1月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	⑤					1	2	③	1	2	3	4	5	6	⑦
6	7	8	9	10	11	⑫	4	5	6	7	8	9	⑩	8	9	10	11	12	13	⑭
13	14	15	16	17	18	⑰	11	12	13	14	15	16	⑰	15	16	17	18	19	20	⑳
20	21	22	23	24	25	⑳	18	19	20	21	22	23	㉑	22	23	24	25	26	27	㉒
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30	31				

◆◆祥雲閣のご案内◆◆

和の空間で四季折々の庭園を眺めながら500円でお茶とお菓子を味わえます。（10時～16時まで）

茶道をはじめ、狂言、謡、舞踊等の発表会やお稽古などにご利用いただけます。

- ◆所在地 大崎市古川福沼一丁目2番2号
- ◆電話 0229-24-3385
- ◆交通 JR古川駅から徒歩約20分
東北自動車道古川ICより車で約10分

- ◆駐車場 有
- ◆休館日 月曜日
（月曜が祝日の場合は翌日）
- ◆入館料 無料

